

菱田海鷗

かひしが

漢詩人。

天保七年六月美濃國生れ、

明治二十八年二

月九日歿（一八六一五）。

諱重禧、

通稱文藏。

大垣藩儒菱田毅齋の第六

子。

長じて安積良齋ごんざんの學ぶ。

藩老小原鐵心てつしんに知られ、

藩贊教官、

尋ついでて

評定役兼侍講となる。戊辰年爲羽伏見役の折、鐵心の命を受けて大坂

に赴いた歸路官軍に捕へられると、刑に臨んご一詩「就縛將屠腹、賦之

自貽」を賦したたけ、赦されて死を免われた。ゆゑ總裁局史官に拔擢

せられ、爾來福島縣權知事、青森縣權令、廣島控訴裁判所判事、文部

省權少書記官等と歴任。明治十八年下野して復仕せず、東京に往して

おぼとせ鴻雪せつとう爪、

おねたう秋月種樹、

依田學海、

巖谷一六、

岡鹿門等と往來、詩名を

上げた。

漢詩集『海鷗詩刺』（明治二十五年二月二十一日自刊）、『海鷗遺稿』

（大野百鍊編、昭和二年四月二十日安藤又三郎刊）がある。

